

事故種類	労働災害	発生日時	平成24年9月1日14時25分	事故当事者	1次下請
事故区分	労働災害	年齢性別	28歳	職種	型枠工
被災程度(全治)	右中指中節骨開放骨折 右中指神経断裂、右中指挫減創				
事故概要	2名で現場打ち函渠の外部型枠の脱枠作業中(上中下段分離)、下段型枠は、全て取り外し、中段型枠を取り外す作業を行っていた。1枚目を取り外し、2枚目の横の型枠を、外そうとバールでコンクリートと型枠の間に差し込みあげた際、型枠がはがれ落下し、持っていたバールで手を負傷した。				
事故原因等	(原因) 作業手順書を守らなかった。 ① 上段型枠より先に中段型枠を外した。 ② 取り外そうとしている型枠以外の型枠が浮き上がった。その浮いた型枠を外すとき、下側にバールを差し込んだだけで型枠が剥がれて落下した。 (責任の所在) ・作業員が作業手順書と異なる手順で作業を行った。 (安全管理者等の所在および行動) ・安全管理者は、事故後の状況を的確に把握しており報告を迅速に行っている。				
改善策等	①毎週、1回、朝のKY活動の時間を延長(5分→10分)し、各作業内容毎に現場において作業の手順にしたがって、安全教育を実施する。 ②作業前に職長が作業内容に応じた手順等を把握しているかチェック表を用いて確認する。 ③毎日の安全巡視の際、作業チェックリストの記載内容が守られているか点検表にて確認する。 ④作業手順書を現場休憩所に掲示する。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	管内の現場に事故概要を周知し、点検・指導を徹底する。				

事故状況図

事故状況図

② 作業前チェックス

改善策

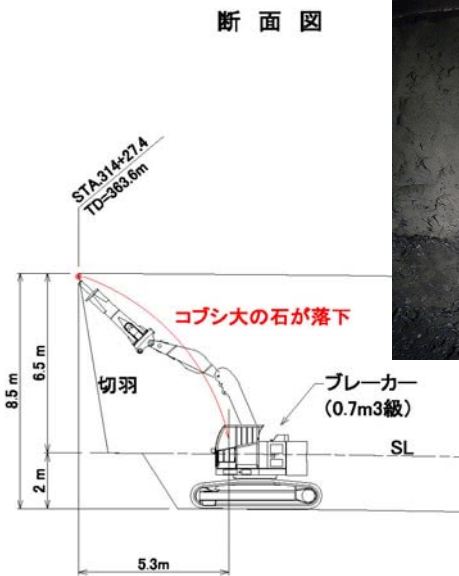
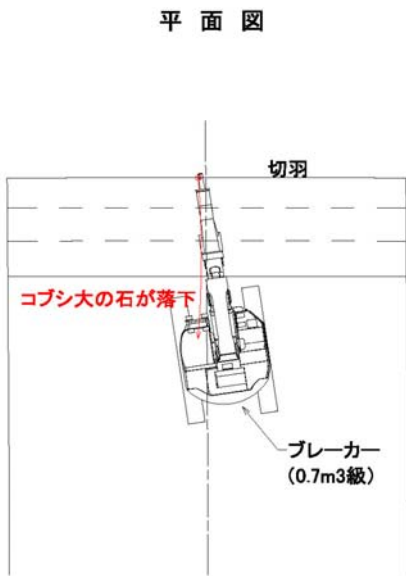
作業前チェックリスト《職長が作業員へのヒヤリングにより記載する》									
※チェック項目									
1. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
2. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
3. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
4. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
5. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
6. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
7. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
8. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
9. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前
10. 作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前	作業員の名前

③ 安全点検表

定期安全点検表	
点検項目	点検結果
1. 作業員の名前	作業員の名前
2. 作業員の名前	作業員の名前
3. 作業員の名前	作業員の名前
4. 作業員の名前	作業員の名前
5. 作業員の名前	作業員の名前
6. 作業員の名前	作業員の名前
7. 作業員の名前	作業員の名前
8. 作業員の名前	作業員の名前
9. 作業員の名前	作業員の名前
10. 作業員の名前	作業員の名前

事故種類	労働災害	発生日時	平成24年9月6日 11時35分	事故当事者	1次下請け
事故区分	労働災害	年齢性別	38歳男性	職種	坑夫
被災程度(全治)	右環指伸筋腱断裂、右環指挫創(全治2ヶ月)				
事故概要	坑口から約360m付近で、ずり出し完了後1300kgブレーカーを使用して切羽の浮石除去を行っていたところ拳大の石がブレーカーの運転席屋根の開口部から運転席に飛び込み、ブレーカー運転者の右手薬指に当り受傷した。				
12 事故原因等	<ul style="list-style-type: none"> ・当初開口部にアクリル板がついていたが取り外したため。(粉塵等の汚れで上部の視界が悪くなるため。) ・アクリル板が外してあったが、復旧しなかった。 ・日常のパトロールでアクリル板が外してあることに気付かなかった。 ・ブレーカーの運転者はまさか自分に飛石が当たるとは思っていなかった。 ・断面が比較的大きいので切羽面上部の作業を行なう際は、重機が切羽面に近づかなくてはならない。 				
改善策等	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せ簿・点検表等に設備不良等の確認欄等を受け、重複した確認体制を実施する。 ・上部の開口部等ブレーカー作業時に飛石のある箇所に下記の対策を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ①運転席上部の開口部を塞ぐ → エキスパンダメタルを取付ける。 ②運転席前面の格子部分の隙間を小さくする → 格子の隙間を半分にする。 ・重機車両等の安全設備の変更及び改善が必要な場合は、作業員の判断でせずに下請けの所長への報告及び元請の統責者の許可を得ることを周知徹底する。 				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時の安全協議会を開催し、類似工事における再発防止に向けた注意喚起を行った。 ・主任監督員を通じて事故事例を情報提供し、再発防止の指導徹底を行った。 				

事故状況図



改善策



エキスパンドメタルを取り付け
上部の開口部を塞ぐ。




格子の間隔を半分にし
飛石の進入を防止する。

打合せ簿・点検表等に設備不良等の確認欄等を受け、
重複した確認体制を実施する。


事故種類	労働災害	発生日時	平成24年9月13日13時45分	事故当事者	1次下請
事故区分	労働災害	年齢性別	60歳	職種	防水工
被災程度(全治)	全治5日(右大腿部打撲・血腫・挫創、左下腿部挫創、右肘打撲・擦過創)				
事故概要	外壁工事の外部足場上でコンクリート木コン穴詰め用プライマー塗布作業中、足場の端部(H=1m)より転落し、基礎ベースコンクリートで右大腿部を打撲し、左足下腿部の挫創、右肘に打撲・擦過傷を負った。				
事故原因等	(原因) ①前日生じた開口部(H=1m)に足場が設置されていなかった。 ②立ち入り禁止区域への進入防止措置・表示が不十分だった。 ③法定義務のない危険箇所での安全帯の未使用。 ④新規入場者への危険箇所の周知・教育の不足 ⑤被災者が入場1日目で現場状況の把握不足 (責任の所在) ・仮設備(足場)及び立ち入り禁止表示の設置が遅れた。 ・新規入場者への立ち入り禁止区域への指示不足 (安全管理者等の所在及び行動) ・安全管理者は、事故後の状況を的確に把握しており報告を迅速に行っている。				
改善策等	①当該開口部の足場設置及び安全巡視の強化(2回/日→3回/日) ②大型看板(A1)による立ち入り禁止箇所の周知と現場内の表示。 ③赤外線センサー音声案内板(トークナビ)を現場入口部に設置し、「立ち入り禁止」「安全帯使用」等の音声による注意喚起を行う。 ④新規入場教育の強化 ・新規入場教育後、元請職員、職長、新規入場者同行による作業場・危険箇所の現地確認教育の実施。 ・朝礼時、新規入場者には簡潔な自己紹介をさせて作業所全体の認識と個人の安全意識の向上を図る。 ⑤現場状況の把握の強化 ・朝礼の冒頭に1分間の静かな場を設け、1日の行動目標・危険箇所を把握させる場を作り、安全意識の向上を図る。 ・新規入場者のヘルメットに目印(ヘルバンド)を1週間取り付け、作業所全員が「新規入場者」をひと目で認識できるようにする。				
類似工事(他工事)へ活用できる対策等	・管内の現場に事故概要を周知し、点検・指導を徹底する。				

事故状況図





↓

改善策









① 当該開口部の足場設置

②-1 大型看板(A1)による立ち入り禁止箇所の周知
②-2 現場内の表示


③ 赤外線センサー音声案内板(トークナビ)を現場入口部に設置。

④-1 新規入場教育後、元請職員、職長、新規入場者同行による危険箇所の 現地確認教育
④-2 朝礼時、新規入場者による簡潔な自己紹介

⑤-1 朝礼の冒頭に1分間の静かな場を設け、1日の行動目標・危険箇所を把握させる場
⑤-2 新規入場者のヘルメットに目印(ヘルバンド)を取り付け、作業所全員が「新規入場者」をひと目で認識できる措置



⑤-1



⑤-2